

宮田村誌 上巻 目次

題字 伊藤 浩

目

次

口 絵
カラ一
黒一

序

発刊のことば

凡例

自然編

第一章 概説

一 位置.....

二 村境.....

三 面積・世帯・人口.....

第二章 地形

第一節 木曽山脈.....

一 経ヶ岳山塊.....

二 恵那山塊.....

三 駒ヶ岳山塊.....

第二節 木曽山脈の成因と地形.....

一 造山運動.....

二 階段状地形.....

第三節 溪谷.....

一二

九

七

六

六

五

四

三

二

一

一

一

一

一

官田村誌

上巻

一 太田切渓谷.....

二 中御所谷・北御所谷.....

三 黒川渓谷.....

四 藤沢川渓谷.....

五 谷頭侵食.....

第六節 水河地形.....

一 水河地形の成因.....

二 濃ヶ池カール及び濃ヶ池.....

三 駒飼の池.....

四 千疊敷カール.....

五 その他のカール.....

第七節 舟窪と雪窪.....

第六節 扇状地.....

一 太田切川扇状地.....

二 山麓複合扇状地.....

一一

九

七

六

六

五

四

三

二

一

一

一

一

一

第八節 開析と田切地形	二六	第三節 その他の花こう岩	四一
一 河岸段丘	二六	第四節 緹状片麻岩	四三
二 開析作用	二六	一 變成作用	四三
三 台地・田切地形	二七	二 緹状片麻岩	四三
四 再設扇状地	二七	第五節 片状ホルンヘルス I 及び II	四四
五 微地形の変遷	二七	第六節 天竜礫層	四六
第一章 土 壤	二九	第七節 沖積層	四八
第二章 水 文	一九	第八節 その他の稀少岩塊	四九
第三章 陸 水	一九	第九節 ローム層	四九
第一節 河 川	一九	第十節 土 壤	五二
一 太田切川・黒川	一九	一 土壤の生成	五二
二 小田切川	三〇	1 火山灰土層	五三
三 西麓の小河川	三一	2 開析地帶	五三
四 その他の水利	三三	3 沖積地帶	五三
第二章 水 質	三四	4 山麓複合扇状地地帶	五三
第三章 発電事業	三五	附 鉱物	五六
一 太田切水系	三四	二 農協調査資料	五三
1 太田切発電所	三五		
2 新太田切発電所	三五		
3 中御所発電所	三五		
二 天竜川大久保発電所	三七		
第四章 地 質	四〇		
第五節 すくも地帯	三八		
第六章 地質	四〇		
第一節 概 観	四〇		
一 新生代の地殻変動	四〇		
二 古生層・マグマの侵入	四〇		
第二節 木曽駒花こう岩	四一		
第三節 その他の花こう岩	四一		
第四節 緹状片麻岩	四三		
一 變成作用	四三		
二 緹状片麻岩	四三		
第五節 片状ホルンヘルス I 及び II	四四		
第六節 天竜礫層	四六		
第七節 沖積層	四八		
第八節 その他の稀少岩塊	四九		
第九節 ローム層	四九		
第十節 土 壤	五二		
一 土壤の生成	五二		
1 火山灰土層	五三		
2 開析地帶	五三		
3 沖積地帶	五三		
4 山麓複合扇状地地帶	五三		
附 鉱物	五六		
二 農協調査資料	五六		
第一章 登山史・登山道	五七		
第二章 登山記録	五七		
第一節 登山記録	五七		
十六例	五七		
第二節 登山道	六三		
1 内の萱・横山登山口	六三		
2 小出・権現コース／六四	六三		
3 藤沢口	六三		
4 北割口	六三		
5 宮田高原経由	六三		
6 北御所コース／六八	六三		
7 ロープウェー／六九	六三		
8 オッ越・将基頭コース／七〇	六三		

9 不動滝登攀コース

第三節 頂上及び宿泊施設

- 一 頂上及びその附近 七〇
二 駒ヶ岳宿泊施設 七〇

第六節 山岳気象—駒ヶ岳

- 一 雪 九二
二 霜 九二

- 1 宝剣岳／七一 2 中岳 3 本岳 九三
4 前岳／七三 5 その他／七四 九三

- 6 頂上からの展望 七四
7 風 九四

- 8 駒ヶ岳宿泊施設 七四
9 雲 九四

- 10 遭難対策と自然愛護 七七
11 天気・雨雪 九五

- 12 遭難防止対策 七七
13 自然愛護対策 九五

第六章 気象

- 第一節 気温 七九
二 地形と気温 七九

- 一 日較差 七九
三 気温と水温 七九

- 四 気温と凶作 七九

第二節 風

- 一 南卓越風 八四
二 谷風・山風 八四

第三節 降水量

- 一 一年間降水量 八九
二 月別降水量 八九

第四節 天気・気候

- 一 年間降水量 八九
二 月別降水量 八九

第五節 その他の気象

- 一 年間降水量 八九
二 月別降水量 八九

第六節 山岳気象—駒ヶ岳

- 一 雪 九二
二 霜 九二

- 1 宝剣岳／七一 2 中岳 3 本岳 九三
4 前岳／七三 5 その他／七四 九三

- 6 頂上からの展望 七四
7 風 九四

第七節 気象と人生

- 一 研究課題 九六
二 気候に関する俚諺 九六

第七章 動植物

- 第一節 動物 九七
一 里の動物 九七

- 1 トビ 2 ツバメ類 3 ヒバリ 九七

- 4 ムクドリ／九八 5 カラス 6 セキレイ 九七

- 7 ウソ 8 モズ／九九 9 その他の鳥 九七

- 10 水辺の小鳥／一〇〇 11 ネズミ／一〇一 12 モグラ 九七

- 13 ヘビ 14 カエル／一〇二 15 溪流の魚 九七

- 16 天竜川の魚／一〇三 17 川虫 18 昆虫／一〇四 九七

- 19 農林業の害虫／一〇八 20 アメリカシロヒトリ／一〇九 九七

- 21 イネミズゾウムシ／一一〇 九七

二 山の動物

- 1 里山から二、〇〇〇mまで

- 2 蝶類／一一三 3 リス 九七

4 ノウサギ	5 ニホンザル	1 経過	2 災害の考察／一三五		
6 クマ	7 イノシシ／一四	3 災害状況／一三六	4 救助状況		
8 その他の哺乳類	9 山のネズミ／一五	5 集団移住計画／一三七			
10 ハコネサンショウウオ		二 因作	一三八		
〔、〇〇〇mから頂上まで〕		三 地震・火災			
1 オコジョ／一一六	2 カモシカ	1 関東大震災	2 駿河湾地震		
第三節 植物：					
一 里と里山の植物					
1 畦畔の植物／一一九	2 春の七草				
3 平地の野草	4 烟の雜草／一二〇				
5 水田の雜草	6 原野の雜草／一二一				
二 山地 山岳の植物					
〔低山帯から一、六〇〇mまで〕					
1 里山の植物	2 春山のかん木／一二三				
3 夏から秋の山路	4 秋の七草／一二三				
〔亜高山帯〕					
山の植物の見分け方					
三 山菜・木の実・きのこと					
1 山菜	2 木の実	3 キノコ／一二六			
四 葉草			一三五		
五 帰化植物			一一六		
六 村内の林叢と古木			一一七		
1 林叢	2 古木・珍木		一一九		
第八章 災 害：			一三三		
一 昭和三十六年前線豪雨			一一三		
17 柏木遺跡／二〇一	15 円通寺遺跡／一九七	13 元宮神社東遺跡／一八八	14 天白古墳／一九三	18 伏戸遺跡	

原 始 編

第一章 遺跡各説

緒言

第一節 天竜川河岸段丘上の遺跡

1 中越下遺跡

2 狐塚遺跡

3 あみだ原遺跡／一四六

4 つつじが丘遺跡／一五〇

5 滝ヶ原遺跡／一五一

6 駒ヶ原南遺跡／一五四

7 西垣外遺跡／一六二

第二節 西部山麓の遺跡

1 上の宮遺跡

2 丸山遺跡

3 駒渕遺跡／一六五

4 下の宮館跡

5 高河原遺跡／一六六

6 熊野寺遺跡／一六八

7 松戸遺跡／一七五

8 米山A遺跡／一八四

9 稲迦堂遺跡

10 城山／一八五

11 木戸六遺跡

12 宮の沢遺跡

第三節 小田切川右岸台地の遺跡	1 駒ヶ原東遺跡／二〇九	2 駒ヶ原中遺跡	三一四
	3 駒ヶ原下遺跡／二一二	4 カラス林古墳	三一四
	5 カラス林遺跡／二一六	6 三つ塚古墳／二三一〇	三一六三
	7 三つ塚遺跡／二三三	8 三つ塚中遺跡／二四二	三五三
	9 三つ塚下遺跡	10 三つ塚上遺跡／二四五	三六四
	11 ニッヤ遺跡／二四九	12 ニッヤ北遺跡／二五八	三六四
	13 ニッヤ下遺跡	14 ニッヤ東遺跡	三六四
	15 ニッヤA遺跡		
第四節 太田切川左岸段丘上の遺跡	1 大田切上遺跡	2 大田切下遺跡	一五九
	3 御座石遺跡	4 三つ塚南遺跡	
第五節 小田切川左岸段丘上の遺跡	1 五升蒔遺跡	2 下の段遺跡／二六二	一六〇
	3 実庵遺跡／二七一	4 姫宮遺跡	
	5 田中上遺跡／二九六	6 田中南遺跡／二九九	三〇〇
第六節 大沢川水系遺跡			
	1 郷藏遺跡	2 佃遺跡	
	3 北田圃遺跡／三〇一	4 田中北遺跡	三七三
	5 向山遺跡／三〇二	6 田中東遺跡／三一八	三七三
	7 作道遺跡／三一九		
第七節 中越遺跡			
一 中越遺跡の範囲			三三三
二 調査の経過			三七三
三 遺跡の概要	19 古町遺跡／二〇一	20 木戸口遺跡	三三四
四 繩文時代前期の遺構	21 広垣外遺跡／二〇四		三三四
五 繩文時代中期の遺跡			三五二
六 繩文時代後期の遺跡			三五六
七 その他	1 城遺跡	2 城南遺跡	三六三
	3 城遺跡	4 城南遺跡	三六三
第二章 遺跡に見る時代の流れ	一 一万里以前の宮田		三六四
	二 九千五百年前頃の宮田		三六四
	三 七〇八千年前の宮田		三六四
	四 六千年前頃の宮田		三六五
	五 五〇六千年前の宮田		三六五
	六 四〇五千年前の宮田		三六五
	七 三千年前後の宮田		三六六
	八 二千五百年～三千年前の宮田		三六六
	九 二千年前頃の宮田		三六六
第一章 古代に関する伝説	第一節 日本武尊		
	一 駒ヶ岳と駒ヶ原		三七三
	二 御座石		三七三
	三 赤須の御蔭杉		三七三
	四 姫宮と大御食神社		三七三

第二節 御所や宮田	三七四		
第三節 坂上田村丸	三七四		
第四節 黒川の不動滝	三七四		
第五節 駒漬	三七五		
第二章 古代の集落	三七七		
第三章 東山道宮田駅	三七九		
第一節 信濃国や伊那郡の統治	三七九		
第二節 奈良時代の伊那の面影	三七九		
第三節 文献上初見の宮田	三八〇		
一 「延喜式」に見える宮田	三八〇		
二 『倭名類聚抄』に見える宮田	三八一		
第四節 東山道と宮田駅	三八一		
一 東山道	三八一		
二 宮田付近の古代東山道	三八一		
三 宮田駅	三八二		
1 神宜屋平付近説	2 柏木小路付近説	3 宮田付近説	4 田中付近説
第五節 宮田という地名	三八五		
一 地名考	三八五		
二 宮田という地名の分布	三八五		
三 「知信記」巻裏文書の宮田村について	三八六		
第六節 宮田駅あたり	三九一		
第四章 源平騒乱の波	三九三		
第一節 源氏の旗上げ	三九三		
第二節 木曾義仲の挙兵	三九三		
第三節 大田切郷之城の戦	三九四		
第四節 諸族の台頭	三九五		
一 小井弓氏	三九五		
二 片桐氏の旧領安堵	三九六		
三 小田切氏	三九六		
第一章 鎌倉時代	三九九		
第一節 諏訪郡と伊那郡の境	三九九		
一 諏訪信重解状	三九九		
二 諏訪大明神画詞	三九九		
三 神長官訴状	三九九		
第二節 春近領と中沢郷	三九九		
一 春近領	四〇〇		
二 中沢郷	四〇〇		
第三節 宮田・中越郷の諏訪神社への勤仕	四〇一		
第二章 南北朝時代	四〇三		
第一節 北条氏の滅亡と諏訪氏	四〇三		
第二節 中先代の乱	四〇三		
第三節 大徳王寺城の戦	四〇三		
第四節 宗良親王	四〇四		

第三章 室町時代

5 大田切城跡／四三三 6 中越十三塚／三四四

- 第一節 大塔合戦と春近人々 宮田氏 中越氏 四〇四

- 第二節 結城陣番の人々 四〇五

- 第三節 『諏訪御符札之古書』に見える宮田社 四〇六

- 第四節 地方の乱れ 四〇七

第四章 武田氏時代

- 1 熊野寺をめぐって 2 その他の寺院 四三八

- 第一節 武田氏の侵入 四〇八

- 第二節 伊那侍成敗の事 四一〇

- 第三節 諏訪社造営勤仕 四一二

- 第四節 宮田郷周辺の村々 四一四

第五章 高遠城主の変遷

- 1 熊野寺薬師如来像 2 熊野寺聖観音像 441

- 第一節 武田氏の衰え 四一七

- 第二節 織田氏の侵入—高遠城の戦 四一八

- 第三節 高遠城主の変遷 四一九

第六章 中世の社会と文化

- 1 熊野寺五輪塔 四四一

- 第一節 遺跡 遺物から見た中世の集落 四二一

- 第二節 氏族と城館跡 四二二

- 第一 小田切氏 四二二

- 第二 中越氏 四二三

- 第三 宮田氏 四二七

- 四 その他の城館跡 四二九

1 下の宮館跡 2 安岡城跡／四三〇

3 下牧城跡／四三一 4 表木城跡／四三一

第三節 宗教

- 一 神道 四三六

- 1 地神様 2 熊野社 3 諏訪社／四三七 四三六

- 4 姫宮社 5 その他の神社 四三七

二 仏教

- 1 熊野寺をめぐって 2 その他の寺院 四三八

第四節 美術・工芸

- 一 仏像 四三九

- 1 熊野寺薬師如来像 2 熊野寺聖観音像 四三九

- 2 全昌寺薬師如来立像 四三九

- 3 熊野寺五輪塔 四三九

三 墓碑

- 1 熊野寺五輪塔 四四一

前書

第一章 近世封建社会

- 第一節 封建制の確立 四四五

第二節 封建制

- 一 封建制 四四六

二 領有的土地制度

- 1 皇室御領 2 幕府領 3 寺社領 四四六

第二節 封建制確立頃の高遠領支配	四四九	第三節 宗門改め	四八六
一 保科氏	四四九	第四節 宗門送状並往来手形	四八七
二 鳥居氏	四五〇	一 村送状	四八八
三 幕府領の頃	四五一	二 宗門往来	四八八
四 内藤氏	四五三	真慶寺宗門往来	
第三節 村の構成と施政機関		一 大田切分村 村送状	四八六
一 封建社会における農民	四五三	二 養子縁組村送り状例	四八七
二 御法度 御触書	四五四		
1 御法度請書 2 制札 3 御触書	四五四		
4 回状 5 村の申合規定	四五五		
6 村方定法帳	四五五		
三 近世村落の成立と発達	四五七〇		
四 五人組制度	四五七〇		
1 五人組制度の沿革 2 五人組の組織	四五七〇		
3 五人組帳 4 五人組議定書	四五七一		
五 村の施政機関	四五七八		
1 村方三役 2 三役外の機関	四五七八		
3 特殊におかれた機関	四五七八		
4 村役人の家筋 5 村役人の任期	四五七八		
6 村役人の任務 7 村役人の役料	四五七八		
六 村の入費	四五八二		
1 村入費 2 各種負担金	四五八五		
第二章 宗門改め			
第一節 キリスト教の伝来と禁教			
一 宮田村御検地水帳	五〇三		
二 中越村御検地水帳	五〇三		
第二節 禁制			
第一節 キリスト教の伝来と禁教			
一 宮田村御検地水帳	四八五		
二 中越村御検地水帳	四八五		
第三節 御検地水帳			
1 明暦の検地 2 元禄の検地	五〇〇		
第二節 近世の検地			
一 慶長の検地	五〇〇		
二 高遠領の検地	五〇〇		

第四節 高遠領高田畠書分帳	五一
内藤知行所郷村帳	五一
一 高遠領高・田畠書分帳	五一
二 内藤丹後守知行所郷村帳	五一
第五節 元禄以後の検地	五一
一 新開田畠・畠成竿入	五一
二 大田切村新開田畠改帳	五一
三 中越村畠成御竿入帳	五一
同 新田畠御位附帳	五四
第六節 検地の種類	五一
第四章 貢 稟	五二
第一節 貢租の種類とその実例	五二
一 正租	五七
二 雜租	五八
三 小物成	五九
四 浮役	五三
1 国役	五
2 夫役	五
3 高掛物	五
第二節 貢租の割合及び割付	五五
一 村高と毛付高	五五
二 租率	五五
三 貢租の割付	五六
1 檢見取	五八
2 定免	五八
第三節 貢租の減免	五八
一 地損引関係	五八
二 青立見分願及び悪地見分引	五三
三 歳下年季及び立帰り	五三
第四節 貢租の徵収と年貢免定	五三
一 免定の交付と割当	五三
二 年貢免定	五三
1 元禄二年御年貢割付の事	三
2 墾内石高と田畠貢租率	二
3 元禄十二年年貢免定	一
4 天明七年十月中越村年貢免定	四
5 文政年間の免定	五
6 明治二年大田切村年貢免定	六
7 明治三年新田年貢免定	七
8 年貢一覽表	八
第五節 貢租の納入	五四
一 貢租の納入物	四九
二 手本米	四五
三 収納米注意	五四
四 俵入糀目	五〇
五 貢租の納入	五一
六 納米の処理及び保管	五五
七 郷藏普請及び残米村預り	五五
八 年貢皆済目録	五四
第五章 藩財政と領民	五六
第一節 高遠藩の特質	五六
第二節 藩財政の窮状	五六
一 借入金施策	五六
二 興津騒動	五六
第三節 文政の第一次改革	五六

一 在仕送役の登用	五五七	二 発端までの歴史的変遷	五八七		
二 借財返還の延伸と転換計画	五六一	1 慶長十年	一		
才覚金制度の拡充	2 月割前納制	2 寛永年間			
第四節 天保の第二次改革	五六二	3 元禄三年大境裁定	五八九		
一 献金及び勤金・冥加金	五六二	1 上穂から高遠に提訴			
二 御拝地百五十年祭計画	五六二	2 宮田から反論返答書			
三 家筋軒別書上帳作成	五六二	3 上穂から江戸提訴と宮田側返答書			
四 諸高掛定法帳	五六三	4 空白期間	五		
五 江戸藩邸の改革	五六三	5 実地検分			
六 幕末の状況	五六三	6 大ひなた山と帰命山論争起る			
第五節 才覚金	五六四	7 再検分	8 最終裁許	9 紛争再燃	
第六節 献金・勤金・冥加金	五六四	第三節 宮田 諏訪形山論	六〇四		
一 献米 献金	五七〇	一 享保年中の入会争論記録	六〇四		
二 天保の第二次再建と百五十年祭	五七一	二 藤沢日影山山論	六〇六		
第七節 家筋軒別書上帳	五七四	1 嘉永の第一次紛争			
第八節 諸高掛定法帳	五七六	2 文久の西山境界紛争			
1 夫銭諸役高掛（町割）	2 割合帳	第四節 入会に関する諸事例	六〇九		
3 諸高掛定法帳（南割）	4 その他	一 小田切河原採草赤木対宮田 中越紛争	六〇九		
附記 1 村役人數		二 黒川御立山稗畠入会一件	六〇九		
2 御勝手御用達及び在仕送役		三 入会権の施行—入山伐木規定	六一〇		
第六章 入会と境界	五八五	1 大入会			
第一節 入会山	五八五	2 宮田五カ村入会規定及び村々規定			
第二節 宮田・上穂大田切入山論	五八六	3 入会地の分割			
1 争論当事者と論所		第五節 下河原争論	六一六		
2 当事者	2 地籍と問題点	1 下河原の宿命	六一六		
3 語句注		2 宮田五カ村入会規定及び村々規定	六一六		

第六節 大田切御分杭	六二二	五 高遠藩の裁定	六四六
一 大田切境界	六二二	六 上穂側江戸に再提訴	六四七
二 御分杭と御境目に関する取替手形	六二三	七 宮田返答書	六四八
1 宮田・上穂間の手形	六二二	八 裁定進行	六四九
2 中越・赤須間	六二四	九 下平井で宮田が提訴	六五〇
三 御分杭の建替	六二四	一〇 示談 済口証文	六五二
1 元文三年 2 宝暦三年	六二四	一一 その他の井筋	六五三
3 石造御分杭建替計画	六二四	一 丸山井	六五三
第七章 井 筋	六二六	二 飲み井	六五三
第一節 七カ村大井筋・黒川井	六二六	三 合の沢新井筋	六五四
一 大井筋概観	六二六	四 中越村小田切河原水利例	六五六
1 大井筋水系・桜戸井・諏訪形井	六二六	五 宮田村小田切河原	六五六
2 大井筋の名称	六二六	六 拾貰用水・寺沢用水	六五八
二 大井筋の管理	六三一	第七章 産業・経済	六六〇
1 維持管理協定 2 春近郷大井筋争論	六三一	第一節 農業	六六〇
3 水利関係諸件 4 桜戸井改修計画	六三一	一 稲作	六六〇
5 北割新井筋計画	六三一	1 用 水 2 稲 種 3 苗 代	六六〇
第二節 宮田井(大田切井)争論	六四一	4 代 持 組 5 田 植 6 稲刈り	六六〇
一 取入井口の変遷	六四一	7 稲拔き 8 白挽き 9 取 穀	六六〇
1 宮田井と丸山井 2 黒川井	六四三	10 小作米 11 耕作の広さ・日役	六六〇
二 宮田井復活の氣運	六四三	二 烟 作	六六五
三 宮田井復活工事と争論発端	六四五	1 烟 の 作 物 2 栽 培	六六五
1 概 要 2 天保十三年四月工事開始	六四五	三 肥 料	六六八
3 藩内報対策	六四五	1 青草 刈敷 2 看 肥 3 下 肥	六六八
四 上穂側の反対運動	六四六	4 灰 5 その他	六六八

第二節 牛 馬	六七三	5 天保以後の造酒	6 酒の販売価格
1 百姓持馬	六七三	3 売薬業	七四
第三節 特殊作物	六七七	第七節 職人	七五
1 漆	六七八	1 職人の種類	七一
2 椿	六七八	2 職人の運上錢	七一
3 藍及び菜種	六七八	3 職人事例	七五
第四節 猪 垣	六八三	4 徒弟制度	七五
一 猪垣の沿革と構造	六八三	5 渡り職人	七一
二 猪垣の残影	六八八	第八節 物価と賃金	七一
三 猪打ち・猪追い	六九一	1 元禄二年雜穀代米割定法	七一
第五節 林 業	六九三	2 文政元年御立直段	七一
一 林業概況	六九三	3 天保の米価	七一
二 高遠藩の林政	六九三	4 嘉永の米価	七一
3 庶民と林産業	六九六	5 貨幣制度	七一
4 材木改番所	六九六	6 諸品値段と米相場	七一
5 高遠藩の林政組織	六九六	7 物価と世情	七一
第六節 商工業	七〇一	二 貸金	七一
一 商業の発達と中馬	七〇一	1 概説	七一
1 城下町と宿場町	七〇一	二 庶民の経済と金融	七一
2 宿場商人と行商人	七〇一	1 幕末における百姓高と借用証	七一
3 商品	七〇一	2 庶民の営業資金	七一
4 手工業	七〇一	3 無尽・賴母子講	七一
5 塩の道	七〇一	三 藩無尽	七一
6 商工余話	七〇一	1 御積金・賴母子講	七三一
第七章 交 通	七三一	2 集金講	七三一
第一節 街道の変遷	七三一	第二節 街道の変遷	七三一
一 伊那街道	七三一	1 伊那街道	七三一
二 春日街道	七三一	2 新伊那街道	七三一
三 新伊那街道	七三一	3 宮田宿	七三一
第二節 宮田宿	七三一	4 酒造業	七三一
一 酒屋の分布	七三一	1 酒株	七三一
2 減石	七三一	2 造酒役米	七三一
3 酒屋の分布	七三一	3 酒屋の分布	七三一
4 造酒役米	七三一	4 造酒役米	七三一

一宿の発生	七四〇	1 宿駅と街道	2 宿場の規模	3 差村制度	2 小出村差村申請
二間屋と伝馬制	七四五	4 殿様思召し次第	4 助加錢増額	5 差村免除嘆願運動	6 難済書例
三本陣	七四七	四当分助郷	七八七	五休村一代助村	七八八
四宿駅の状況	七四八	六助郷出動の手順と弊害	七八八	七五五	七五五
1 公用入・旅人	2 伝馬と合鑑	1 手順	2 弊害	寿明君様御通行	七八九
3 庶民の旅と宿場町	七五六	8 和宮様御降嫁	七九二	一 天竜川の渡河	七九六
五太田切川瀬越	七五六	九助郷事情の要約と経費負担	七九四	2 殿島橋	七九〇
六宿駅の經營事情と嘆願運動	七五六	第十章 幕末における諸情勢と特殊な通行	八〇六	1 天竜川の架橋と渡船	七九六
1 お定賃錢	2 藩の救濟策	第一節 幕末の情勢	八一〇	2 大久保の舟と中越村荷問屋	七九八
3 天明の六カ宿陳情	七五六	第二節 水戸浪士の通行	八一〇	3 上野橋	八〇〇
4 文政の六カ宿陳情	5 天保以後の状況	第三節 賢勅使・賢官軍事件	八一四	4 村内河川の橋掛	八一〇
6 貨錢	7 宿駅の経費	四通船	八一四	四 通船	八一〇
8宿駅の經理白書	七五六	第一節 幕末の情勢	八一〇	1 高松隊(賢勅使)	八一〇
第三節 中馬	七五六	第二節 水戸浪士の通行	八一〇	2 相樂總三衛導隊(賢官軍)	八一〇
一 中馬の発生	七五六	第三節 賢勅使・賢官軍事件	八一四	3 宮田宿の対応	八一〇
二 荷問屋	七五六	四通船	八一四		
三 中馬宿	七五六	第一節 幕末の情勢	八一〇		
四 中馬と伝馬の反目	七五六	第二節 水戸浪士の通行	八一〇		
1 中馬と伝馬の本質的相違	七五六	第三節 賢勅使・賢官軍事件	八一四		
2 初期の中馬争論	3 明和元年の裁許	四通船	八一四		
4 明和以後の中馬争論他	5 結び	第一節 幕末の情勢	八一〇		
第四節 助郷	七七七	第二節 水戸浪士の通行	八一〇		
一 助郷制度	七七七	第三節 賢勅使・賢官軍事件	八一四		
二 権兵衛街道開通と助郷	七七八	四通船	八一四		
三 元村と差村一助加(錢)村	七七八	第一節 幕末の情勢	八一〇		

第四節 長州征伐と高遠藩	八一八	一 郷藏制度	八四一
第五節 高遠藩、官軍に従軍	八二二	二 村内の郷藏	八四一
第六節 御救米	八四六	三 郷藏の管理	八四三
第七節 舟掛米	八四六	四 米の出庫	八四五
第八節 御救小屋	八五〇		
第一節 災害概要・災害年表	八三一	一 舟掛米	八四六
第二節 水害	八三四	二 御救米	八四六
一 正徳五年の末満水	八三四		
二 享保年間鍛治ヶ嶋・下河原流失	八三五	一 定例人足	八五一
三 前河原の災害	八三五	二 防猪人足・木曾助郷	八五一
四 水害付記	八三六	三 村内川普請人足	八五一
第三節 因 作	八三六	1 村内人足	八五一
一 天明の凶作	八三六	2 寄人足	八五一
二 天保の凶作	八三七	四 工事費負担	八五八
第四節 厄 疫 地震・防火	八三九	五 郷歩	八五八
一 厄疫	八三九	六 諸経費負担	八六一
二 地震	八四〇		
三 防火	八四〇	付表 名主一覧表	八六五
第五節 郷 藏	八四一	上巻年表	八七〇
		資料提供者名	
		後記	